



# 水 土 里 ネット ちば

CHIBA

2014  
平成26年

No.303 / 夏号



第19回美しい農村環境写真コンテスト 佳作「昆虫採集の親子」 撮影場所：鴨川市大山千枚田／撮影者：菅原譲太郎

## CONTENTS

海上地域環境保全会(市原市)の活動

両総土地改良区 事務局長就任挨拶	01
千葉県大根土地改良区 事務局長就任挨拶	02
千葉県干潟土地改良区 事務局長就任挨拶	03
東日本大震災の復旧について	04
環境に配慮した排水路護岸工事について ～県営湛水防除事業 梁井入落地区～	06
震災対策農業水利施設整備事業による ため池ハザードマップの作成について	08
関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所 大根根用水支所 開所式が開催される	10

ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物を保管していませんか?	12
複式簿記研修会の開催について	13
農山漁村地域整備交付金に係る要望活動を実施	14
平成26年春の叙勲／新顧問弁護士の紹介	15
GIS(水土里情報システム)講座の開催	16
平成26年度千葉県新規採用職員紹介	18
富里スイカロードレースを開催しました!	20
東金市産業交流拠点施設「みのりの郷東金」	21
全国土地改良大会(山梨大会)開催のお知らせ	



水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)

# 海上地域環境保全会(市原市)の活動

海上地域環境保全会では、多面的機能支払制度における農村環境保全活動として市原市立海上小学校の児童が参加し、菜の花、そば、コスモスの栽培を行っています。そばは収穫し、「夷隅の里手打ちそばの会」に指導を依頼してそば打ち、試食会を行っており、今年で7年目になります。

平成25年 11月 そばの収穫 手刈りと機械刈り、両方体験します。



平成25年 12月 初めてのそば打ちに、子供たちもたくさん質問してがんばりました。毎年6年生が播種からそば打ちまでを行っています。



平成25年 秋 見事なコスモス畑になりました。



平成26年 6月 今年もコスモスの種を播きました。



# 国営事業完了を間近にして



両総土地改良区  
事務局長 子安 亮二

両総用水事業は、香取市佐原一帯の利根川や大須賀川などの洪水に悩まされた地域と一方、九十九里浜の広大な平野でありながら川が少なく、少しの日照りでも激しい水争いが起こるほど水が不足する地域、この数10キロ離れた地域の苦しみを一度に解決した事業です。太平洋戦争の真っ只中、利根川の水を九十九里地域に運ぶという日本で初めての大きな事業でした。

ちなみに「両総」とは、上総国、下総国の両方にまたがっていることから、「両総」と呼ばれているそうです。

両総土地改良区も昭和16年「千葉県両総用水改良事業期成同盟会」に始まり、「両総普通水利組合」を経て、土地改良法の施行により昭和27年「両総土地改良区」に組織変更されました。以来60数年、香取市ほか6市6町1村、受益面積17,500haに農業用水の送水と排水改良を行う全国有数の土地改良区になりました。

当土地改良区は、国営事業で造られた3箇所の揚水機場、幹線水路78km、排水機場2箇所を運転維持管理し、併せて賦課業務やその他土地改良事業によって造成された施設の維持管理を64名の職員で行ってきました。第2期国営事業(更新事業)により、幹線水路がパイプラインになり、コンピューターを駆使した水管理施設の導入など維持管理の合理化が進められた中、組織改革も並行して行われ、現在49名の職員で対応しております。

今、土地改良区の置かれた状況は、組合員の高齢化に伴う後継者不足、また、東日本大震災以来、電気料金の値上げ等に伴う維持管理費の高騰など厳しい状況にあります。国営事業完了間近の平成26年4月事務局長を拝命し、国営事業で更新された施設を有効利用するには、国営附帯事業の実施が必要不可欠であり、維持管理に必要な限られた予算と人員をより効率的に活用することが求められております。

水はあらゆる生命の源であり、これは時代背景が変われど未来永劫変わらないと思います。先人が命がけて築き上げたこの資産を次世代に引き継ぐことを、肝に銘じて職務に精励したいと思います。

最後になりますが、水土里ネット両総に対し、関係機関皆様のなお一層のご指導ご鞭撻をお願いいたします。



▲新第3揚水機場(奥に公平水路橋)



▲東部幹線水路東金東分水工  
(開水路は支線水路。三方向に流れる)  
「幹線水路は写真左から右に流れ、農道下に埋設」

# 千葉県大利根土地改良区事務局長 就任にあたって

本年4月1日付けで前向後事務局長の定年退職に伴い、大利根土地改良区の事務局長に就任いたしました大木でございます。

日頃関係機関の皆様より当改良区の事業運営等に多大なご支援ご尽力を賜り心から感謝申し上げます。

大利根土地改良区は千葉県の北東部に位置し、九十九里浜を望む匝瑳市・旭市・山武郡横芝光町の2市1町の受益地6,603ha(水田3,850ha、畑2,753ha)、北はおよそ国道126号線、南は九十九里浜、東は飯岡灯台、西は二級河川栗山川に囲まれた地域であります。

昭和45年から平成4年まで、国営大利根用水農業水利事業により揚水機場は笹川・新川・新宿、また用水路は大幹線・東西幹線・新宿幹線、排水機場については新川排水機場、排水路は大布川・新堀川等が改修されました。しかし、完成から約30年以上が経過し、用排水機場にあつては機器の故障等の発生、用排水路にあつてはひび割れ、摩耗等の発生による機能低下が生じており、今後、施設の維持管理に多大な費用と労力を要し、農業用水の安定供給及び排水機能に支障をきたすことから、国営施設機能保全事業「大利根用水地区」として本年度から実施するはこびとなりました。

平成23年3月11日東日本大震災で当土地改良区は多大なる被害を生じました。

農地及び排水路については液状化と津波による塩害、基幹排水路目那川については津波によって崩壊等、用水路(パイプライン)は破断、これらについて災害復旧事業での対応をまいりました。震災の影響により、電力料金の値上げが相次ぎ改良区への負担も大きくなっている状況にあり、現在の農業情勢の中で賦課金の値上げをすることはできないので、他の支出削減に努め健全な運営を行っております。

地域農業の現状は高齢化による後継者不足、担い手不足が生じている中、土地改良区は農業生産基盤を守り、発展させるための重要な位置にあります。今後も役職員一体で組合員に理解と協力を得る努力をして土地改良区運営に励むことは勿論ですが、難題な事案に取り組むにあたり、関係機関のご助力が必要になる場合も多々あると思いますので、その節はご支援、ご協力を頂けますよう宜しくお願いいたします。



千葉県大利根土地改良区  
事務局長 大木 裕

# 千葉県千潟土地改良区事務局長 就任にあたって

本年4月1付けで前石毛局長の定年退職に伴い、千潟土地改良区の事務局長に就任いたしました高木でございます。

当改良区は、千葉県の北東部に位置し千潟八万石と称し、その昔椿の海の干拓により生まれた地域であり早害と水害を繰り返す中、大正14年当時千葉県の技術者野口初太郎翁が利根川取水の大利根用水計画(案)を樹立し昭和10年県営大利根用水事業が着工となり昭和26年完工をしましたが、当時利根川から山を削り貫き用水する事はなかなか一般には理解されず反対運動も起きたそうです。

その後、昭和45年に国営大利根用水事業が着工し3回の計画変更後平成5年に完工しました。現在取水元であります笹川揚水機場は完成から35年が経過し、近年老朽化が著しく用水路も先の東日本大震災により亀裂や沈下により通水に不安を感じておりましたが、本年度より国営施設機能保全事業「大利根用水地区」として更新事業に入ります。

この事業により施設の長寿命化をはかり、先人達の努力と苦勞により伝えられしこの歴史ある大利根用水を維持管理し、用水の安定供給に取り組んで参ります。

大利根用水は当改良区と千葉県大利根土地改良区の共用施設で上流下流はありますが、円滑な用水配分を行うため両改良区より委員を出し、大利根用水運営委員会を設立し用水運営を行っております。

また、当改良区では昭和20年代後半から40年代後半にかけて団体営ほ場整備事業その後県営ほ場整備事業により区画整理を進めて参りました。団体営のほ場は一反割区画で、何カ所にも散らばっており機械の大型化による耕作に不便を感じておりましたが、「ガット・ウルグアイラウンド農業合意」後の新たな国際環境への対応策として、平成7年度から広域農業基盤緊急整備促進事業を進めて参りました。

この事業は広域的な水田地帯のほ場の大区画化等を基幹とした生産基盤・土地利用・水利用調整等を総合的且つ緊急的に行うもので、現在4地区が完了し、事業実施中が4地区です。先に完了し生まれ変わった農地では、近代農業を支える大型機械がその能力を十分に発揮し、ほ場を走り回り稲作での労働時間の短縮や担い手農家への集積と作業受委託に大きな変化をもたらしています。

この優良農地を後世に残し伝えるべく改良区職員として微力ではありますが努力して参りますので、関係各位には今後共ご指導ご協力をお願い申し上げまして、事務局長就任の挨拶といたします。



千葉県千潟土地改良区  
事務局長 高木 進一

# 東日本大震災の復旧について

香取市経済環境部  
農政課 主任主事 菅谷 秀幸  
(前香取農業事務所 復旧支援課)



平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、香取市は最大震度5強を観測し、停電、水道の断水、下水道の砂没や断裂、道路の寸断、河川護岸の崩壊、住宅の倒壊や沈下・傾斜など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

香取市は関東一の米生産量を誇る水田地帯であり、農業は地域の基幹産業です。農地・農業用施設においても甚大な被害を受け、作付不能の水田面積は約2,500haにもおよぶなど、作付けに大きく影響を与えました。

被害状況として、農地においては液状化により噴砂口が多数発生し、地盤変動(沈下・隆起)により農地が不均平となっていました。パイプラインでは、継手部を中心に多数の漏水が発生しており、末端までの送水ができない状態でした。排水路では、液状化により、水路内の土砂が盛り上がった箇所や、護岸水路(柵渠等)の梁が折れ、上部が縮まり断面不足を生じ、排水障害を起していました。機場では、地盤沈下により建屋が傾いたり、吐出管等が破損している箇所がありました。

これら被害の発生箇所としては、利根川の沿線沖積地に集中しており、特に利根川の旧河道で埋め立てられたところで液状化・地盤変動し、ひどいところでは位置も動いている状態でした。

## 被災状況写真

### 農地



液状化による噴砂工



地盤変動による沈下

### パイプライン

漏水状況



### 排水路



破損した柵渠



湾曲した水路



排水樋管の破損

### ため池



斜樋部に陥没

被災した、農地・農業用施設を復旧するために、平成23年5月に香取農業事務所内に復旧支援課が発足し、千葉県職員4名、香取市職員3名、改良区からの応援2名 計9名で復旧支援が始まりました。事業内容は香取市で被害が甚大であった香北地区の農地・農業用施設の復旧業務及び香取市の復旧支援を行いました。

赴任し最初の業務は、被災箇所の確認でした。被災箇所は広域で、日中はカメラ・テープ・スコップを持って現地調査・測量などを行い、帰庁後は調査内容を基に図面・設計書の作成を行いました。作業は深夜にまでおよぶことが数多くありました。

査定は、11次査定まで実施し農地14箇所、農業用施設176箇所 計190箇所受けました。

復旧工事は、作付けを最優先とし23年度を主に農地・パイプライン・機場を施工して、24,25年度に排水路の復旧工事を施工しました。

パイプラインの復旧では、上流部を復旧すると、下流部から漏水が新たに発生する状態が続きました。また、宅地下・水路下から漏水していた箇所もあり、あらゆる工法を検討しながら復旧を実施し完了するまで2カ年かかりました。

排水路では、査定時に再利用で申請した箇所の柵渠を撤去すると、梁に無数のクラックが入っており使用できない物が多数ありました。工事が進むにつれ、査定時にわからなかった被災箇所が多く発見されることが多く、復旧工法の変更など何度も計画変更の手続きを行いました。

震災当初に農地・農業用施設を見たとき、3年間で復旧が完了できないのではと思いましたが、無事完了することができ、現在は震災前と同じように作付けが行われ、施設についても、震災前と同等の能力で稼働することができました。これらも災害復旧事業に携わっていただいた香取農業事務所をはじめ、各関係機関並びに関係者のご理解とご協力の賜物であり深く感謝を申し上げます。

## 復旧状況

### 農地



復旧した農地に作付け

### パイプライン



### 排水路



排水樋管

# 環境に配慮した排水路護岸工事について

## ～県営湛水防除事業 染井入落地区～

東葛飾農業事務所 技師 長谷川知子

### 1. 地区の概況

本地区は千葉県そめいりおとしの北西部に位置し、染井入落排水路は手賀沼に流入する基幹水路です。流域は、染井入落排水路沿いの標高2.4m前後の低平農地と、上流部の標高25m前後の丘陵地からなっており、谷津田と手賀沼周辺農地は優良な農用地が形成されていますが、近年丘陵地は都市化が著しくなっています。

染井入落排水路は、昭和40年代の県営ほ場整備事業により築造した普通河川で、軟弱な地盤のために地盤沈下が進行し、築造当時に比べて排水能力が低下していました。また、流域の開発に伴い、排水量も増大したことから、周辺農地は頻繁に湛水するようになっていました。

このため、排水機場及び染井入落排水路の改修を行うこととし、平成8年度に地区採択され、平成25年度に事業完了しました。

#### 【地区の概要】

	染井入落地区	染井2期地区
●事業年度	平成8年度～平成12年度	平成12年度～平成25年度
●事業費(事務費を除く)	4億9,200万円	12億2,200万円
●事業内容	排水機場 1箇所	幹線排水路工 L=2412m
	サイホン工 1式	
	ゲート設備 1式	



【染井入落地区 概要図】



【平成25年 湛水状況】

### 2. 市民団体との調整

平成24年度末に、手賀沼周辺の環境に関心のある複数の市民団体から、平成25年度工事予定区間には希少生物が生息しているとして、環境に配慮した工法の検討を求められました。

市民団体と共同で生き物調査を行った結果、千葉県レッドデータブックの重要保護生物に位置付けられているヤリタナゴ、メダカ、ホンサナエ、トウキョウダルマガエルなどの希少種が確認された他、要保護植物であるミクリの群生も確認されました。

この調査結果を踏まえ、関係機関(柏市・千葉県手賀沼土地改良区・市民団体)と検討会を重ね、護岸水路の一部を土水路(側水路)とする工法を選定しました。また、工事開始直前には市民団体と連携し「生き物救出作業」を2回行い、水路に生息している生き物を、工事の影響を受けない上流部へ放流しました。この救出作業の実施に当たっては、市民団体の広報にも掲載され、子供を含む一般市民や近隣の沼南高校科学部など多数が参加しました。



【生き物調査】



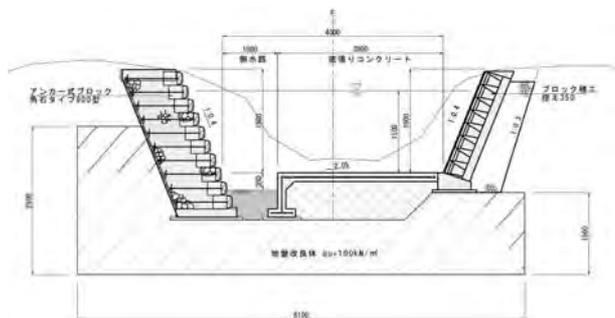
【生き物救出作戦】

### 3. 環境配慮型水路

染井入落排水路の下流約1.0kmは手賀沼からの漁業権が設定されており、改修に当たっては漁業協同組合と協議し、魚類の生息に配慮したブロック積みみの2面張り護岸としました。

上流約1.2kmについては、当初想定していた以上に地盤が軟弱であり、施工中に水路が崩壊する事態が発生したため、地盤改良工を追加しL型水路やB型柵渠の3面張り水路として工事を進めてきました。

平成25年度施工区間(230m)の水路底を土とした側水路部は、計画排水量の流下断面から除き、置き石や植生などを可能としました。工事では、現状土や下流で発生した自然石を活用し、また、左岸側(南側)は植生が期待出来る環境ブロック積みとしました。



【平成25年度施工断面図】



【完成写真】

### 4. 今後の対応

今後、柏市や市民団体がミクリの移植や、生き物の隠れ場となる置き石を行うなど、側水路を改良しながら維持管理していく予定です。また、生き物調査も共同で継続して行い、側水路の有効性など経過観察していくこととしています。

# 震災対策農業水利施設整備事業による ため池ハザードマップの作成について

勝浦市農林水産課

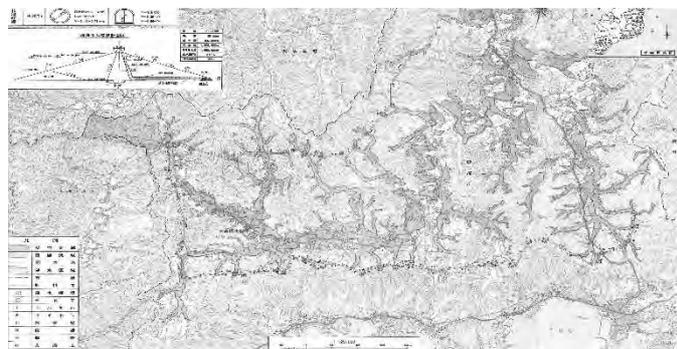
勝浦市の農業は水稲が中心であり、中山間地を縫って流れる二級河川夷隅川及びその支川の沿岸が水田地帯となっております。そのかんがい用水は、二級河川夷隅川等からの自然取水と里山に点在する小さなため池等に依存しておりましたが、用水系統が未整備なため、かんがい期には慢性的な用水不足に悩まされておりました。

そこで、用水不足による干ばつ被害を解消するため、市の北西部、夷隅川水系二級河川古新田川最上流に、県営かんがい排水事業により昭和42年度から平成2年度までの24年の歳月をかけて21.9kmの幹線水路を有する「勝浦ダム」を築造しました。

勝浦ダムは、有効貯水量185万トン进行有する中心コア一型フィルダムで、堤高29m、堤長231.18mであります。完成時の受益面積は784.1haであり、市を横断する2本の幹線水路は水田の大動脈として、勝浦ダム用水を市内各地域に供給し、水稲の安定生産に大きく寄与しております。



勝浦ダム堤体



勝浦ダム地区概要図



勝浦ダム貯水状況

さて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、大津波被害のみならず、東北地方を中心にため池等の農業水利施設が被災し、甚大な被害が発生しました。

本市は、南に太平洋を望むリアス式の海岸線を有していることもあり、大地震が発生し大津波が来襲した場合は、三陸地方と同様の被害を受けるであろうことは想像に難しくなく、津波対策として、津波防災マップの改訂、津波緊急避難路の整備、津波避難訓練等を実施しております。このように大地震の防災対策については本市の地勢柄、海岸地域に意識が集中してしまいがちですが、東北地方でのため池の決壊を目の当たりにすると、有効貯水量185万トンの勝浦ダムの防災対策を講じる必要性を痛感したところであります。

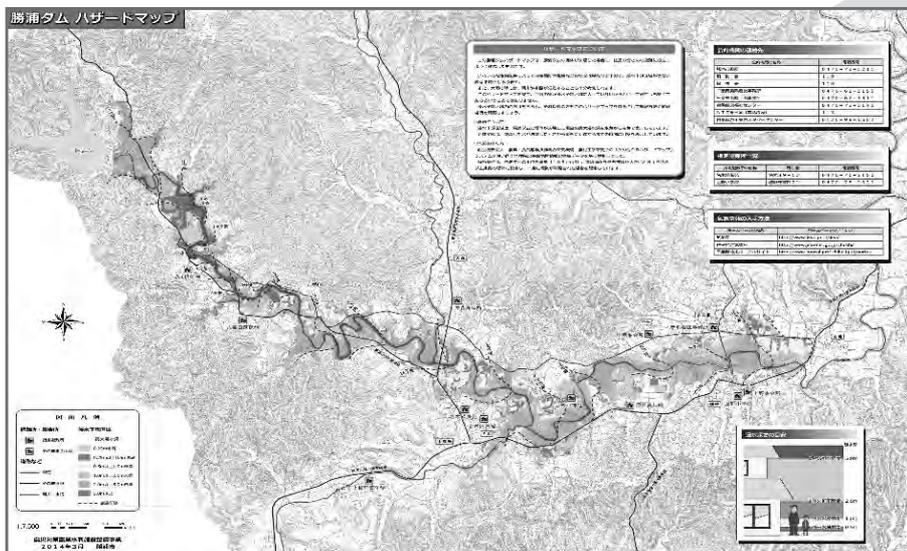
このような状況の中、平成24年度補正予算において震災対策農業水利施設整備事業が拡充され、水利施設の耐震調査やハザードマップの作成等が定額補助で実施できることとなりました。正に時機を得た事業であり、本事業により勝浦ダムの防災対策を実施することといたしました。

耐震性点検調査については勝浦ダム所有者である千葉県が、ハザードマップの作成については勝浦ダムの維持管理を勝浦市土地改良区が行っていることから、本市が実施するという役割分担となりました。

「勝浦ダム ハザードマップ」の作成は、千葉県土地改良事業団体連合会に業務委託しました。ダム堤体決壊による浸水予想区域の検証については、(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所が開発した解析ソフトウェア「ため池DBハザードマップVer4.01[簡易氾濫解析システム]」を使用し、国土地理院の基盤地図情報の標高データを基に解析を行いました。解析時間は60分であり60分後には浸水前線が約5km下流に到達する結果となりました。浸水は堤体直下の夷隅川支川から本川に流入し、その沿岸の農地や住宅等に広がる想定であります。一方で指定避難所、学校、福祉施設、各集会所等については、ほぼ浸水を免れる想定であり、それら施設等が適正な場所に設置されており、防災施設としての機能を確保できることを改めて確認しました。また、ダム堤体から約1.5km圏内では浸水スピードが速く、分刻みの避難が明暗を分けることとなるため、堤体が決壊し浸水が始まったことを如何に速く住民に伝達できるかが課題として浮き彫りとなりました。

完成したハザードマップは、浸水想定地区の住民や関係機関等に配付するとともに、市HPの防災情報に掲載し、広く防災意識の向上に努めています。また、電子データは運用している「水土里情報システム」内に構築し、農地等地図データ管理の一元化を行い、効率的な運用が可能となりました。

今後は、このハザードマップを基に防災体制の見直し、再構築等を図るとともに、堤体決壊という万が一の事態が発生しないように、日々のダム施設の維持管理に関係者共々、今後も万全を期す所存であります。



勝浦ダムハザードマップ

# 関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所 大利根用水支所 開所式が開催される

海匠農業事務所

平成26年6月20日、関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所大利根用水支所の看板掛け並びに開所式が開催されました。

看板掛けは、JR旭駅北口(旭市口)近くに開設された支所で関東農政局整備部長初め関係者にて執り行われました。



大利根用水支所 看板掛け

左から  
関東農政局大田整備部長  
千葉県農林水産部山本次長  
大利根用水支所山本支所長  
利根川水系調査管理事務所安楽所長  
旭市明智市長(大利根用水推進協会会長)  
千葉県大利根土地改良区飯島理事長  
千葉県干潟土地改良区穴澤理事長

その後、開所式がヒューマンプラザ黄鶴(旭市)において関係者30数名で行われ、主催者代表として関東農政局大田整備部長が「国営施設機能保全事業大利根用水地区の事業実施に伴い大利根用水支所を支所長以下3名でスタートするのでよろしくお願いいたします。また、本事業の施設更新及び改修工事と併せて現場でのソフト事業を含め、今後、地域農業の活性化が図れるよう取り組んでいきたい。」と挨拶されました。

続いて来賓の千葉県農林水産部山本次長から「大利根用水地域は、昔「樺の海」とよばれた湖を江戸時代に干拓し、約3,000haの農地を生み出した地域で、その状況は地形の状態から長年にわたり用水不足や洪水被害に悩まされていた。

これを改善すべく、昭和10年に利根川から用水を引く事業が開始され、途中、2回の事業の見直しをしながら、平成4年に現在の形になっている。

しかし、この事業により造成された主要施設も既に30年以上が経過し、平成21年と22年に主要施設である笹川揚水機場の3台のポンプのうち2台が故障した。

これをきっかけとし、全面的な見直しが必要とされたため、平成23年から25年にかけて主要施

設の機能診断調査が行われ、主要施設の「長寿命化計画」が策定された。

これに基づき本年度から「国営施設機能保全事業大利根用水地区」として東関東地域では最初の地区として採択され、本日開所式の運びとなったことは誠に喜ばしい限りであり是非早期の事業完了を願いたい」旨の祝辞が述べられました。

その他に、大利根用水地区国営施設機能保全事業推進協議会長（旭市明智市長）、千葉県大利根土地改良区理事長、千葉県干潟土地改良区理事長が祝辞を述べられました。

次に、利根川水系土地改良調査管理事務所安楽所長が、本事業の概要について説明されました。

- 受益面積 8,832ha(水田:7,263ha、畑:1,569ha)
- 総事業費 37億円
- 予定工期 平成26～35年度(10カ年)
- 主要工事
  - 揚水機場(改修) 3箇所(笹川揚水機場、新川揚水機場、新宿揚水機場)
  - 排水機場(改修) 1箇所(新川排水機場)
  - 用水路(改修) 9.3km(全長51.5km)
  - 排水路(改修) 0.2km(全長 6.2km)

最後に、開所式に参加された皆さんで記念撮影を行い、終了となりました。



# ポリ塩化ビフェニル (PCB) 廃棄物を 保管していませんか？

水土里ネット千葉 総務部・管理指導部

PCBは、絶縁性、不燃性等の特性によりトランス、コンデンサといった電気機器をはじめ幅広い用途に使用されてきましたが、昭和43年にカネミ油症事件が発生するなど、その毒性が社会問題化し、昭和47年以降



コンデンサの保管状況

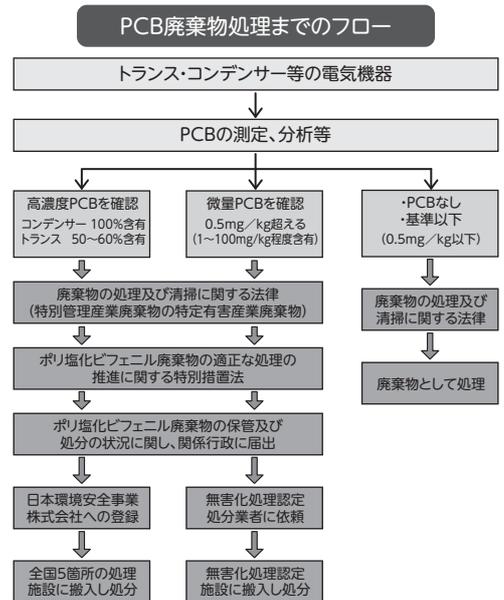
その製造が中止され、昭和51年以降PCB電気工作物の新規設置が禁止されています。しかしながら、それまでに製造され、現在廃棄物となっているPCB電気工作物については、処理施設が整備されるまでの間、結果として事業者(土地改良施設にあっては土地改良区等)による保管が続いている状況にあり、将来的に確実にかつ適切に処理することが必要とされています。

## ◇処理期限は平成39年3月まで

高濃度PCB廃棄物に係る処理施設の稼働の遅れや処理計画に未登録であった機器の追加登録等から、当初予定していた平成28年3月までの処理完了が困難な状況となり、平成24年12月に処分の期間が平成39年3月まで延長されました。更なる延長はないものと思われるので、早めに処理事業者への登録申請を行い、期限までに処理が終わるようにしてください。

## ◇処理事業会社へのエントリー

高濃度PCB廃棄物を処理する会社は日本で1社しかありません。未登録の土地改良区は日本安全環境事業株



◀登録様式

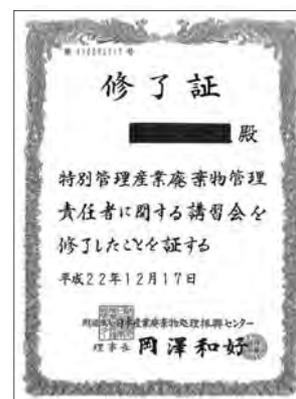
式会社(JESCO)へ早期登録を行ってください。千葉県でも既に多くの事業者が登録をされ、順番待ちの状況にあるようですが、順次処分が行われており来年度から千葉県の事業者が東京の処理場で優先的に処理されるとの話も聞いております。登録をしていない土地改良区は、まず登録申請をしてください。登録様式(総括表)は別掲のとおりですが、詳細はインターネットで「JESCO」を検索してみてください。

◇処理費用等が助成されます

処理費用は、コンデンサ類で総重量が10kgから15kgの場合485千円(消費税込み)です。料金の詳細はJESCOのホームページをご覧ください。また、土地改良区の場合は、「中小企業者等軽減制度」の対象となりますので、この処理費用の70%がPCB廃棄物処理基金から助成されます。(窓口:JESCO)更に、処理場への収集運搬経費が農林水産省から50%補助されますので活用することをお勧めします。(窓口:県庁耕地課)

◇法に基づく県知事への届け出と特別管理産業廃棄物管理責任者の設置を

ポリ塩化ビフェニル廃棄物に関する法令では、事業者は毎年度、そのPCB廃棄物の保管及び処分の状況に関して都道府県知事に届け出なければならぬこととされています。また、「廃棄物処理法」によれば、事業者は、事業場ごとに「特別管理産業廃棄物管理責任者」(特管責任者)を置かなければならぬとされています。「特管責任者」は、1日講習会を受講(費用14,000円)し、必要な知識を習得することにより、比較的簡単に取得することができます。詳細はインターネットで「特管責任者講習会」を検索してみてください。



終わりに、該当する土地改良区におかれましては、法令に従って適切に廃棄物の管理や処理を行い、公法人としての社会的責任を果たしていただきたいと思います。

加えて、現役の役職員の方々が、負の遺産を次代に残さないよう速やかに処理されることを期待しております。

・・・ 複式簿記研修会の開催について ・・・

土地改良区の広域合併を推進するリーダーの育成を図るため、特に複式簿記会計等の理解を深めることを目的とした「平成26年度土地改良区基盤強化事業会計コース」に基づき、複式簿記研修会を下記により開催します。

- 1. 実施日時 平成26年9月26日(金曜日) 午前10時~午後5時30分
- 2. 場 所 千葉県土地改良会館 4階大会議室
- 3. 講 師 全国水土里ネット他

問い合わせ先 水土里ネット千葉 会員支援センター 諸岡・齊藤・藤代 電話043-241-7745

# 農山漁村地域整備交付金に係る 要望活動を実施

～関東一都九県土連協議会～

水土里ネット千葉 総務部

関東一都九県土連協議会では、去る4月30日に農林水産省本省並びに関東農政局に対し、予算確保の要請活動を実施しました。

平成26年度の農山漁村地域整備交付金の当初予算配分額は、非常に厳しい状況であったため、事業の進捗に影響がでることが懸念されるところでありました。農業農村整備事業は、地域農業と密に調整を図りながら、計画的に実施することが何よりも重要です。そこで、以下に記す事項について要望を行いました。本来であれば、関東一都九県の10土連で行うところですが、緊急に行う必要があったために、協議会会長県の群馬県土連と副会長県の千葉県土連の2者で行ったところです。

下の写真をごらんのとおり、本省並びに関東農政局ともに幹部職員の方々が丁寧に応対され、私どもの要望に耳を傾けてくださり、感謝申し上げる次第であります。

## 【要望書の要旨】

1. 平成26年度農山漁村地域整備交付金予算について、補正予算などによる追加措置を早期に行うこと。
2. 農山漁村地域整備交付金予算を安定的に確保すること。
3. 都道府県への予算配分にあっては、地域の実情を十分に配慮すること。
4. 平成27年度農山漁村地域整備交付金の当初予算編成にあっては、必要な予算の確保を行うこと。



小林農村振興局長へ趣旨説明



末松関東農政局長へ趣旨説明

平成26年  
春の叙勲

きょく じつ たん こう しょう  
**旭日単光章(土地改良功勞)を授章**

かしあてがわ 千葉県借当川沿岸土地改良区理事長 ふせ たもつ 布施 保 様

昭和37年より農業に従事し、平成2年より平成10年まで同土地改良区の理事を務め、平成10年より現職に就任しました。

この25年の長きにわたり、土地改良区の組織運営強化、土地改良施設整備など積極的に推進するなど土地改良事業にご尽力され、土地改良区の運営及び地域農業の発展に貢献されました。



謹啓 新緑の候 皆様にはますます御清祥の御事とお慶び申し上げます  
さて 私こと この度 はからずも平成二十六年春の叙勲で受賞の栄に浴しましたところ早速御鄭重なる御祝意と御激励を賜り御芳情のほど誠に有難く厚く御礼申し上げます  
この栄誉もひとえに皆々様の多年にわたる御指導 御支援の賜と深く感謝申し上げる次第でございます  
今後はこの栄誉に恥じる事のないよう一層精進をいたす所存でございますので相変わらぬ御鞭撻のほど  
お願い申し上げます

謹白

平成二十六年五月吉日

## 新顧問弁護士を紹介

古屋紘昭弁護士の死去に伴い、法曹同期で友人の いわもと のぶゆき 岩本 信行 弁護士が新たに当連  
合会の顧問弁護士として就任されました。



### 経歴履歴

- 昭和20(1945)年4月24日生
- 同 44年 早稲田大学法学部卒
- 同 46年 裁判官任官(裁判官生活13年間)
- 同 59年 東京で弁護士を開業(弁護士生活31年目)
- ※千葉県の仕事もしています。

趣味は、週末、テニスを楽しみ、子供の時から将来は天文学者になろうと考えていたことから、天文学、物理学、相対性理論、量子力学など素人離れしているそうです。

嗜好は、リンゴと蜂蜜を毎日食し、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の詩が大好きだそうです。

# GIS(水土里情報システム)講座の開催

千葉県水土里情報利活用促進協議会  
(水土里ネット千葉)

本協議会では平成24年度から水土里情報システムの本運用を開始し、現在までに37団体がシステム利用を行っております。

これまで、システムの操作説明等を実施して利用推進を行ってまいりましたが、今年度より、GIS(水土里情報システム)講座を開催し、利用者に合った操作説明を実施することとしました。

1回の講座は2団体程度で、実施期間は7月から2月の毎週水曜日9時30分から15時を予定しています(水曜日が祭日の場合は行いません)。

これに先駆け、先日(7月9日)第1回GIS(水土里情報システム)講座が行われ、午前にシステムの構成や各種機能の基本操作説明を行いました。参加者は地図情報の有用性を改めて認識していました。

また、午後には良く利用される複数条件での検索方法や凡例とタイトルを取り込んだ印刷方法など地図情報ならではの機能を使っての操作実習を行いました。参加者は、職場での利用を考え熱心に説明を聞き、何度も繰り返し操作する場面も多く見受けられました。



今後システム利用を検討している団体も含め、多数のご参加をお待ちしております。なお申し込みにあたっては、当会のホームページ(<http://www.chibadoren.or.jp/>)の「水土里情報システムGIS講座申し込み」より、申し込み用紙をダウンロードして、必要事項を記入のうえ、参加希望日の二週間前までにFAXで申し込みをお願いいたします。なお、希望団体が多い場合は事務局で調整させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

最後に水土里情報システムのご紹介をさせていただきます。



上記パンフレットは水土里情報システムのサービスの内容を示したもので、編集システム、高度運用システム、基図閲覧システムの3つのサービスがあります。

編集サービスとは簡易なGISエンジンを使用し、地図データの重ね合わせや属性情報表示といった参照機能、属性検索等の検索機能、情報の修正・追加や色分け等の編集機能などの各機能を活用し、地図情報の様々な運用が可能です。またサーバが配信するデータを背景図として参照し、情報の効率的な共有化を実現します。

高度運用サービスとは高性能なGISエンジンを使用し、編集サービス以上の多様な機能による運用が可能です。

基図閲覧サービスとはインターネットブラウザを使用して、利用機関の基図を手軽に利用できるサービスです。利用者登録を行い、インターネットに接続することで利用が可能です。

水土里情報システムの詳細内容を知りたい方は当会の会員支援センターまでご連絡ください(043-241-7745)。

協議会としましては、水土里情報システム及び説明会の充実を図っていきたくと考えておりますので、会員の皆様にはシステムの利用推進について、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

新規採用職員として千葉県東葛飾農業事務所に配属となりました岩上知可です。出身は栃木県で、大学も栃木の大学に通っていました。大学では主に農業土木について学びました。なぜ、遙々栃木県から千葉県に来たのかというと、千葉県の農業産出額が全国第3位ということで全国でも有数の農業県であること、また農業の盛んな地域である千葉県で、大学で学んだ知識を生かしたいと思い千葉県にやって参りました。

配属から3カ月が過ぎ、今は仕事を覚えることに精一杯ですが、一日でも早く千葉県に貢献できる職員になれるように頑張っていきたいです。どうぞ宜しくお願いします。



東葛飾農業事務所  
基盤整備課

岩上 知可

新規採用職員として千葉県印旛農業事務所に配属となりました川口貴大です。出身は匝瑳市(旧八日市場市)で、実家が米農家と植木屋を営んでいます。生物環境の保全に興味をもち大学に進み、環境に配慮した農業基盤の整備手法を学びましたが、研究は環境に配慮した建築・農村計画をしておりました。研究内容は震災復興支援として放射能汚染により住めなくなった農村(福島県飯舘村)移転の計画・設計を行い、村民への提案を行いました。大学のサークルでは環境省のプロジェクトに参加し、水質調査や動物調査などの定点観測を行い、里山保全に向けたデータ収集に取り組んでおりました。

研究内容は違いますが、農業土木を学んだことを生かして、農家の方々の役に立ちたいと思い、この職を志望しました。配属先では畑地帯総合整備事業 北総中央I期・II期と湛水防除事業 印旛沼II期、経営体育成基盤整備事業 平戸II期を担当しており、事務所職員の皆様のご指導のもと、業務内容をひとつひとつ学ぶ日々です。印旛農業事務所は管内がとても広く、各事業・各工事の位置関係や道を覚えるのにまず苦労しています。今後は積算・工事を行っていく予定ですが、精一杯頑張りますのでご指導よろしくお願いたします。



印旛農業事務所  
地域整備課

川口 貴大

# 規採用職員紹介

夏号・秋号で  
千葉県新規採用職員を紹介します。

新規採用職員として千葉県海匝農業事務所に配属されました、笹子真由香です。

私は千葉県の旭市で育ち、青森県の大学で農業土木を学びました。青森県に住んでいた時は、スーパーに買い物に行くと、千葉県の野菜が売られていて嬉しかった覚えがあります。

職場の上司から、千葉県の農業は昔は水が不足、最下位だったと聞いて驚きました。いかに農業土木という仕事が大変かわかり、私も千葉県の農業を発展させるために、頑張らなければと思いました。

現在、広域農道を担当しており、先輩に一からご指導いただき日々勉強の毎日です。

自分の担当した工事が実際に世の中に出ることは、感動と同時に責任のある仕事だと感じました。責任感を持ちつつ、千葉県の農業の発展につながるより良いものを残していけたらいいなと思っています。



海匝農業事務所  
地域整備課

笹子 真由香

平成26年4月1日付で千葉県山武農業事務所に配属となりました宇ノ澤建哉と申します。香取郡東庄町出身、匝瑳高校を卒業後に青森県の弘前大学へ進み、学科では農業土木を専攻、研究室では農村計画学を学びました。実家は干潟八万石の兼業農家、大根用水の受益であり、県営ほ場整備事業ではたいへんお世話になりました。また、大学時のインターンシップとして国営両総農業水利事業所でお世話になったこともあり、農業土木職の公務員になることは私の強い希望でした。現在は指導管理課で事業に係る管理計画や調査、報告等に携わっています。まだまだ自分の仕事を覚えることで手一杯な未熟者ではありますが、早く一人前の職員として業務をこなせる力を身につけ、千葉県の農業・農村の振興に貢献していきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



山武農業事務所  
指導管理課

宇ノ澤 建哉



# 「富里スイカロードレース」を開催しました!

富里市産業経済課

富里といえば「スイカ」だよ!



今年も甘くておいしい「富里スイカ」を堪能しながら走る、ユニークな「富里スイカロードレース大会」を開催しました!

「のどかな田畑」地帯を走る大会で、3km、5km、10kmの3種類のコース設定があり、各コースの「給スイカ所」では「甘いスイカ」で乾いた喉を潤しながら、今年も約13,000人のランナーが参加しました。



▼10kmの部



ひと もの 情報 が行き交うリフレッシュ空間!

東金市産業交流拠点施設

みのりの郷 東金

広さ約2.6ヘクタールの敷地内に、東金市の魅力をギュッと詰め込みました。新鮮な特産物はもちろん、加工食品、選ぶのに迷ってしまいそうなお土産や目を見張る程勢揃いした植木たちをぜひ、ご覧ください。

レストランやイベントエリアも充実!小さなお子様からご年配の方まで、家族みんなで楽しむことができる施設が誕生しました。

東金マルシェ(農産物等直売所)



朝どり野菜に旬の果物、そして人気のお米まで、いま一番美味しく召し上がれるものばかりを取り揃えました。新鮮さはもちろんのこと、生産者の顔が見える安全・安心を皆様に提供できることが自慢です。いちごやプラム、ぶどうといった特産品から手作りの加工品まで、彩り豊富な季節の「みのり」をお届けします。

とっちゃん(イタリアンレストラン)



地元の食材を使ったパスタランチをはじめ、スープ、こだわりのサンドイッチ、スイーツなど美味しいメニューが盛りだくさんです。



案内地図

所在地 ▶ 千葉県東金市田間1300-3

T E L ▶ 0475(53)3615

ホームページ ▶ <http://minorinosato-togane.com/>

営業時間 ▶ 9:00~18:00(水曜日定休)

緑花木市場



植木は、東金伝統の地場産業。この地で丹精された樹木は、日本各地はもとより、世界各国に輸出されるほどの人気です。緑花木市場には、見事な枝振りの樹木や盆栽も各種取り揃えています。ご購入後のお手入れについてもご相談を承ります。

イベント広場・情報発信コーナー



ご当地アイドルYASSA Comachiをはじめ、地域のパフォーマーの活動発表など年間を通じて様々な催しが行なわれます。

情報発信コーナーの巨大スクリーンでは、城西国際大学の学生が制作した映像作品を上映し、東金・九十九里地域の人・自然・文化を紹介しています。

富士の国やまなし発

かけがえのない農業を次世代へ  
水土里育む土地改良



第37回 全国土地改良大会  
**山梨大会**

平成26年**10/30**(木)

場所 山梨県立産業展示交流館 [アイメッセ山梨]  
甲府市大津町2192-8



【主催】  
全国土地改良事業団体連合会  
山梨県土地改良事業団体連合会

【後援】  
農林水産省、山梨県、山梨県議会、山梨県市長会、山梨県町村会、  
JA山梨中央会、山梨県農業会議、(公社)やまなし観光推進機構

水土里ネットちば 303号 (平成26年7月発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)  
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5  
TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド  
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3  
TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753